

# 情報活用委員会

## 【目的】

- ・ 情報調査力の向上→企業の国際競争力強化
- ・ 多様化する情報に対する分析力の向上
- ・ 国内外の特許情報施策への提言



長田委員長

## Information sources other than patents

### 第4小委員会

#### 特許以外の情報源に関する研究



特許と組み合わせた情報可視化、戦略提案のIPランドスケープを目指す！

- 【群衆を評す】多角的な情報を！
- 【網主観性】対話・一次情報重視
- 【推論のはしご】ステップを踏もう！



戦略サマリ ヘンリー・ミンツバーグ  
<http://str.brynmajor.edu/books/0386023264/>  
 家業継承の道 第一巻  
<http://www.kobun.com/tech/01/01/01/01/01/01/01/01/01/01/>  
<http://doi.org/10.1016/j.vbs.2014.05.001>



白井小委員長

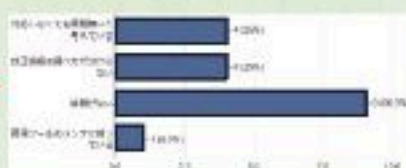
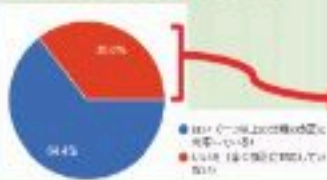
## Analysis

## Patent classification

### 第5小委員会

#### 特許分類を用いた検索・分析に関する研究

- Q 特許分類の改正に業務上対応していますか？
- Q 改正に対応しない理由を教えてください



\*2024年 情報活用委員会内アンケートより

特許分類 (IPC, CPC, FI, Fターム) は毎年のように改正される。これに対応していない、調査や分析等の場面で誤った結論を出したり、思わぬリスクに繋がれる恐れがある。しかし、現状では改正対応が出来ていない企業も一定数存在している。

当小委員会では、取っ付きにくい特許分類の改正について調査し、注意点とともにまとめることで、分類改正対応の参考となる情報の提供、また、改正を切り口に分類の活用方法を検討すべく活動を推進している。



小倉小委員長

## 第3小委員会 知財価値評価に関する研究

- (1) 企業変革につなげる「ストーリー」の明確化
- (2) 企業に関する因果パスの提示
- (3) 経営指標と紐付けた説明・対話が求められている。

知的資本をどう示す？



## 知財・無形資産 ガバナンスガイドライン Ver.2.0

現状の開示内容は？

項目	開示内容
1. 概要	知財・無形資産の重要性、経営戦略との関係
2. 組織	知財・無形資産の管理責任、組織体制
3. 戦略	知財・無形資産の活用戦略、競争優位の確保
4. 投資	知財・無形資産への投資方針、リスク管理
5. 評価	知財・無形資産の評価方法、指標
6. 報告	知財・無形資産に関する情報開示のあり方

投資家は何を知りたい？

項目	開示内容
1. 概要	知財・無形資産の重要性、経営戦略との関係
2. 組織	知財・無形資産の管理責任、組織体制
3. 戦略	知財・無形資産の活用戦略、競争優位の確保
4. 投資	知財・無形資産への投資方針、リスク管理
5. 評価	知財・無形資産の評価方法、指標
6. 報告	知財・無形資産に関する情報開示のあり方

Management  
 ✓ Intellectual property valuation  
 Value creation Strategy  
 CGC



堀田小委員長

## 第1小委員会 IPランドスケープに関する研究①

### ～共創を目的とした知財情報活用

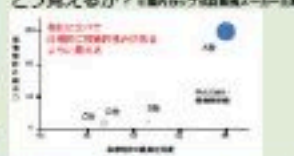
本研究の背景

- ・ 自前主義の限界、価値圏の多様化等により、他社・ステークホルダーと共創する企業が増えてきている。
- ・ 一方で、共創には様々なタイプがあるが、各共創を進める上で何を検討すべきか、その中でIPLがどのように活用できるのか、その具体的な事例は整理されていない。

本研究で目指している方向性

- ① 他社との協業を原動力とした共創タイプを指定
- ② 上記共創タイプを進める上で検討すべき項目を一覧化
- ③ 上記検討すべき項目に活用できるIPL分析手法の例案を提示
- ④ 実際の共創事例を題材とした分析事例の紹介

例) カップ式自動搬送機の共創事例  
 実際に共創したA社は分析するとどう見えるか？ (A社内での共創事例紹介)



## IPL

## Co-creation



富永小委員長

## 第2小委員会 IPランドスケープに関する研究②

### ～将来予測を目的とした知財情報活用

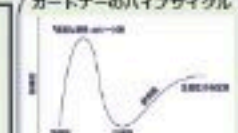
実際の出来事をIPランドスケープにより事前に予測できるかを検証することにより、将来予測を行う上で必要な情報、効果的な考え方・分析手法等を整理し、会員企業が将来予測のためのIPランドスケープを実践する際に有益となる情報を提供する。

#### 事例検討：ドローン

- ・ 技術がハイパサイクルに登場するよりも早く手配できるか？
- ・ 特許明細書のテキストマイニング
- ・ 年代ごとの各IPCの占める割合
- ・ 出願数/論文数/ニュース数の推移
- ・ 発件数/出願数の推移
- ・ 出願数との関係

#### 事例検討：3Dプリンター

- ・ 特許や非特許情報から将来予測のための因子が抽出できるか？
- ・ 国ごとの出願数傾向の違い
- ・ 技術分野における特定分野の特許数、論文数の占める割合の増加
- ・ 「過度な期待のピーク期」とおける特定分野の特許出願数、CPC/FI号数などの増加率



#### 事例検討：鉄道系非接触ICカード

- ・ ハイパサイクルに基づいた分析、PEST分析により将来予測できるか？
- ・ 各ステークホルダーに伝わり得る事例の整理
- ・ 外部環境(PEST)
- 2P(Person+Product)の分析

インベションの成熟度と市場規模を照らし、それらが市場の拡大率/市場の成長率/市場の成熟度/市場の競争率にどのように関連するかを示す。  
<http://www.gartner.com/press-releases/2016/05/02/methodology/gartner-hype-cycle>

事例検討、比較検証(世の中に出現し技術と出ている技術の比較等)、有識者とアライイングの内容を整理して2025年度期財管理理への提言予定

## Future predictions



法村小委員長

## Research